

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-A-4		更新日		2025/1/31	
サイト名		北前船の風待港で栄えた勝景のリアス海岸～加賀港 ^{かかこう}					
基本情報	区分	☐ 有形 ☐ 無形 ☒ その他					
	所在地	松江市島根町加賀					
	指定別						
	種別						
	指定／登録年月日						
	管理団体／モニタリング	大山隠岐国立公園					
	周辺施設／アクセス	☒ トイレ ☒ 売店 ☒ 飲食店 ☒ 駐車場(50台)					
	留意点						
サイトの解説	歴史・文化	「加賀」の読み方は、出雲国風土記の加賀郷の地名起源伝承では元は「加加」で726年に字を「加賀」に変えたといい、地元では「かか」と読むならわしである。佐太大神(サダノオオカミ)が加賀の潜戸で金の弓矢を射ると、洞穴が光輝(かかや)いたという伝説による。 加賀浦は、天然の良港として古くから知られていたが、1672(寛文12)年に日本海の西廻り航路が開かれると、船が風待ちのために入港しにぎわうようになった。松江藩は1790(寛政2)年になると、湾内の桂島と櫛島の間に99間(約180m)にわたる堤防を築造し、北前船寄港地として整備した。同じ頃、佐陀川の開削と拡張を行い、加賀港に入る品々を、佐陀川を通じて松江城下まで輸送するルートを生み出し、交易の隆盛に努めた。北前船が風待ちに寄った場所であり、加賀神社拝殿には北前船の大絵馬が掲げられている。 現在では、島根県の日本海沿岸漁業の基地で第2種漁港として、定置網を中心に漁業が盛んである。魚種は、サワラ、アジ、トビウオ、ヒラマサ、ブリ、マグロなどの水揚げがある。 近隣には、松江ビジターセンターのほか、旧潜戸や新潜戸を遊覧できる潜戸観光遊覧船、キャンプや海水浴などが楽しめる桂島などがある。					
	地質・地形、生態等	西の野波浦、東の御津浦・大崎浜(＝大芦)との間に開けた湾入状の海岸で、『出雲国風土記』にある川来門(かわくど)大浜が加賀浦とされている。北端には潜戸鼻の岬があり、北から西にかけて桂島をはじめ栗島や馬島など複数の島が湾を取り囲んで岩石海岸となっている。また、この場所には南の北山山系の澄水山(しんじさん)・滝空山・三坂山を源流とする澄水川(しみずがわ)、『出雲国風土記』では加賀川と呼ばれている)が加賀湾に流入しており、古代からの人々の住む場所であった このような地形に恵まれ、加賀港は北前船が日本海を往来していた時代より良港であった。1963年から漁港整備計画によって修築工事が進められ、1967年には新旧の潜戸を遊覧する船が巡るようになった。1969～1971年には津の山と要害山の間の湾入部が埋め立てられ、漁港の岸壁が整備された。続く、1983度末までには要害山の北側の岩場と東の浜が埋めたてられ、現在の加賀港としての形態となった。1998年から2005年にかけては隠岐とを結ぶフェリーが運航され、短い期間ではあったがターミナルであったマリンプラザは賑わった。					
写真・図等							
		江戸期に造られた堤防		松江ビジターセンターや潜戸観光遊覧船乗り場があるマリンプラザしまね			
参考文献		島根半島四十二浦巡り再発見研究会 島根半島四十二浦巡りの旅					

江戸期に造られた堤防